自己を見つめ続けよ

理学部長　西川恭治

理学部を卒業、または理学研究科を修了する諸君、まずは卒業、修了おめでとう。

今、私が諸君に尋ねたいことは、諸君にとって、広島大学に在学したことが一体どういう意味があったと思うかである。おそらく、何年か前入学した時には、あるいは希望に胸を膨らまし、またあるいは受験勉強から解放されてホッとした気分に浸っていたことであろう。あれからアッという間に年月が経ち、今卒業・修了を前にして、諸君の胸の中にあるものは如何なるものなのかを尋ねてみたい。

おそらく、やっと自分の学びたいこと、やりたいことが具体的に見えてきた、という人がかなりいることだろう。それはそれで、私自身の経験からも納得できるし、すばらしいことだと思う。学問は奥深いもので、学べば学ぶほど難しくなるし、また興味がわいてくるものである。

人生は、パッと燃えて消え去る炎のようなものだと言われる。諸君は、今その人生のやっと四分の一か三分の一を過ぎたところである。これからの長いが限られた人生で、諸君自身は一体どんな火を灯そうとしているのだろうか。絶えず、自分自身を見つめ、自分が本当に学びたいことは何なのか、あるいは、自分はどんな生き方をしたいのかを問い続けていくことを諸君に勧めたい。そして、何年かして、諸君が社会で立派なリーダーとして活躍するようになった時に、もう一度、広島大学に学んだことの諸君自身にとっての意義を考え、私に教えてもらいたい。

御卒業おめでとう

医学部長　原田康夫

皆さん御卒業おめでとうございます。本年は医学科・薬学科の卒業生百八十三名が巣立って行きます。今年度から我が医学部には百二十名の保健学科の学生が新たに加わりました。あと三年もすると総勢二百八十名の卒業生が出る日本で一番規模の大きい医学部になります。従って、これからは医療・創薬・保健・福祉の面から日本をリードする大学にならなければなりません。また平成七年には我が医学部は創立五十周年を迎えることになります。医学部の歴史として五十年は必ずしも長いものではありませんが、半世紀を迎える大学になったのですから、卒業生の中から日本をリードする或いは世界をリードする人材が出ても不思議ではありません。

皆さんは二十一世紀の医療の担い手であります。今、医療の世界は大きく変貌して来ています。皆さんが研究の対象としようとするものはエイズ・癌・成人病をはじめとして多岐にわたり、また老齢人口の急増は皆さんに幅広い活動の場を提供してくれます。どうか皆さんも広島大学医学部を卒業したことを誇りに思い、これからの仕事や研究に大いに頑張ってください。今度の御健闘を心よりお祈り致します。